

ラグーン(潟湖)周辺で営まれる弥生時代～現代の暮らしを巡る

あおや 青谷かみじちマップ

かつて入江であった青谷平野は、砂丘の発達によって海から隔てられ、ラグーン(潟湖)が形成されました。今から約2,200年前の弥生時代、このラグーンの辺りに人々が生活した跡として、青谷上寺地遺跡が発掘調査されました。その後、ラグーンには上流から土砂が徐々に堆積すると、水田を営むほか、古代山陰道が造営されました。さらに北側には近世山陰道(伯耆往来)が造営され、鳥取藩の施設である宿駅や御蔵が設けられると、青谷の人々の生活の中心地となり、勝部川河口を利用した廻船業も栄えました。また明治後期の鉄道敷設によって青谷駅前も発展していきました。



丸山崎 ★海岸線を歩いた後、岩場に沿って散策道・展望台が整備されています

美しい自然を守るため、砂や動植物は観察するだけにしましょう。
危険な場所や立ち入り禁止の場所には入らないようにしてください。
持って帰るのは楽しい思い出と写真、そして地元のおみやげ!!



200m

クイズ

鳴り砂の浜として有名な井手ヶ浜の砂は、他の砂浜と何が違うのでしょうか?

井手ヶ浜コース

スタート ※時間は徒歩

- ①青谷かみじち史跡公園 約5分 ↓ 約500m
- ②安山岩露頭 約2分 ↓ 約130m
- ③岩本の寒桜 約5分 ↓ 約400m
- ④旧勝部川 約2分 ↓ 約100m
- ⑤興宗寺 約10分 ↓ 約700m
- ⑫井手の金ぴら灯ろう 約3分 ↓ 約180m
- ⑬井手ヶ浜 約25分 ↓ 約2000m
- ①青谷かみじち史跡公園

総移動時間 約52分
全行程 約4km

凡例

- トイレ
- 駐車場
- 撮影スポット
- 道順
- 基本コース
- 井手ヶ浜コース
- JR山陰本線

基本コース

スタート ※時間は徒歩

- ①青谷かみじち史跡公園 約5分 ↓ 約500m
- ②安山岩露頭 約2分 ↓ 約130m
- ③岩本の寒桜 約5分 ↓ 約400m
- ④旧勝部川 約2分 ↓ 約100m
- ⑤興宗寺 約10分 ↓ 約700m
- ⑥江戸時代の山陰道 約3分 ↓ 約100m
- ⑦専念寺 約1分 ↓ 約50m
- ⑧潮津神社 約8分 ↓ 約600m
- ⑨鳥取市あおや郷土館 約7分 ↓ 約550m
- ⑩青谷ようこそ館 約15分 ↓ 約1200m
- ⑪青谷上寺地遺跡中心域 約8分 ↓ 約600m
- ①青谷かみじち史跡公園

総移動時間 約66分
全行程 約4.9km



みどころいっぱい青谷かみじち

①青谷かみじち史跡公園



国史跡である「青谷上寺地遺跡」を適切に保存・活用するために整備された公園です。令和6(2024)年3月に展示ガイダンス施設や弥生の湿地ひろばなど山陰道南側部分がオープンしました。青谷上寺地遺跡の魅力を広く伝えると共に、弥生の体験活動や地域でのイベントの拠点となっています。
(問) 0857-32-8415 / 9時~17時
休園日: 毎月第四月曜日、年末年始

②安山岩露頭



青谷町のはちぶせ山から北にのびる丘りょうを形成する溶岩は、約160万年前に中国山地付近から流れ下ったものです。この溶岩は、比較的粘りの小さい安山岩で、板状に割れ目が発達しています。これは一般的に流れよとする溶岩と地面の摩擦によって生ずるひずみが割れ目になったと考えられています。

③岩本の寒桜



青谷町の日置谷地区から取り木して植樹された寒桜です。例年12月ごろから少しずつ咲き始め、2月中旬ごろに満開となり見ごろを迎えます。花期が長いため、雪と共に見られることもあります。

④旧勝部川



昭和9年(1934)年9月の室戸台風による洪水で、勝部川や日置川の流れる青谷周辺は被害に見舞われました。このため、昭和10年から昭和23年にかけて河川改修工事が実施されました。改修前の蛇行していた勝部川の様子が、JR山陰本線の鉄橋や護岸の石垣で観察できます。

⑤興宗寺



曹洞宗隆法山興宗寺、本尊は千手観世音菩薩像が祀られています。境内本堂横には、天保13年(1842)年に石工川六が制作した地蔵菩薩が彫られた三界万霊等(さんかいばんれいとう)(鳥取市指定保護文化財)が、山門脇には、江戸時代の廻船問屋などが寄進した十六羅漢の石造物が並んでいます。

⑥江戸時代の山陰道



中町通りは、江戸時代の山陰道(伯耆街道)で、宿駅(飛脚の中継所)が置かれ、商家や旅籠(はたご)が並ぶ宿場町潮津の中心街の通りでした。明治から大正にかけては、郵便局や銀行、駐在所なども置かれ、青谷の中心でしたが、明治後期に山陰本線青谷駅ができてからは、次第に駅前の方に中心が移っていきました。

⑦専念寺



浄土宗清蓮山専念寺は、砂丘地の中腹に位置し、江戸時代前の慶長3年(1598)年に建立されました。本尊は阿彌陀如来が祀られ、石段中腹には観音堂があります。参道入り口と境内には石工川六作の地蔵があり、境内には板状の石に六地蔵が彫られています。

⑧潮津神社



旧山陰道の宿場町である元の「潮津村」の氏神で、大国主命(おおくにぬしのみこと)と八上姫(やかみひめ)をまつている神社です。明治元年に稲生大明神(いなおだいみょうじん)と菅原道真(すがわらのみちざね)を祭神とする天満宮を合祀しました。境内には、安政4(1857)年に石工川六作の、海石を台座にした見事なつくりの狛犬があります。

⑨鳥取市あおや郷土館



常設展示には山陰海岸ジオパークの展示コーナーがあり、青谷町の見所、因州和紙や海女漁、鳴り砂などを、資料や映像で紹介しています。また、企画展示室では絵画展や、写真展なども開催されます。
(問) 0857-85-2351
9時~17時(入館は16時30分まで)
休館日: 月曜日・祝日の翌日・年末年始

⑩青谷ようこそ館



季節の農産物をはじめ、豆腐や味噌、青谷上寺地遺跡のお土産やジャムなど、地元でとれた自慢の素材を使った手づくりの加工品、地元の特産品である和紙などを販売しています。
*レンタサイクルもあります。
(問) 0857-85-0600
9時30分~18時
休館日: 月曜日・年末年始

⑫井手の金ぴら灯ろう



この常夜灯は、安政4(1857)年石工川六作の作品です。浸食されたような自然石の台座の形状に合わせて建てられた灯ろうは、川六作品の特徴をよく表しています。

⑫井手ヶ浜



鳴り砂の浜として有名な海岸で、平成8(1996)年には、日本で20か所余りあると言われる音を奏でる浜の中でも音が最も低い日本一きれいな鳴り砂との評価を得ました。海が遠浅で良い波ができることからサーフィン愛好者などが多く訪れています。周辺の施設でサーフボードやSUPボードのレンタルなども行っており、海のアクティビティを体験できる海岸としても親しまれています。

「地下の弥生博物館」青谷上寺地遺跡からの出土品

弥生時代の青谷地域にはラグーン(潟湖)が広がり、そのほとりの低湿地帯に人々が暮らしていました。この地域に分布していた水分を大量に含んだ粘土層が、密閉された酸素のない環境をつくりだし、木材などの有機物が菌に分解されることを防ぐこととなりました。そのため、この地域では保存状態の良い多種多様な遺物が膨大な量で出土し、「地下の弥生博物館」とも呼ばれています。これらのうち、中国大陸や朝鮮半島などとの交易関連資料に加え、当時のものづくりなど弥生時代集落の具体像を知るうえで欠かすことのできない出土品1,353点が、2019年、国の重要文化財に指定されました。ここでは、弥生人の大量の人骨が出土し、脳までも残っていました。2021年に、これらの骨のDNA分析結果をもとに復顔された青谷弥生人「青谷上寺朗(あおやかみじろう)」は、メディアなどでも大きな話題になりました。



※とっとり弥生の王国推進課HPより引用

江戸時代の石工「川六」

石工の「川六」こと尾崎六郎兵衛は、幕末の因幡国気多郡(現在の鳥取市鹿野町・気高町・青谷町)を中心に優れた石造作品を制作しました。「川六」は「川積村(現在の鳥取市青谷町北河原字川積)住民六郎兵衛」の略称で、1831年~1864年の33年間に少なくとも約40件もの作品に銘を刻んでいます。川六の作品は全て地元の安山岩・玄武岩を主としており、地元の石材を活かしながら自然の美しさを取り入れて一体的な造形美を表現しているものが多くみられます。現在でも、鳥取市青谷町興宗寺の万霊等や潮津神社の狛犬、同市鹿野町の鷲峯神社の狛犬など、鳥取市西部エリアを中心に川六の作品を多く見ることができます。

クイズの答え

井手ヶ浜の砂は、石英が大部分で、砂粒がきれいに磨きぬかれています。大きさがそろっていることなどから砂が鳴ると考えられています。また、砂が乾いていて砂の中に空気が含まれていないと鳴りません。ゴミが混ざって汚れると砂は鳴らなくなります。